

2 研究の実際

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点について

(3) 「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援について

先行研究や授業実践で取り入れた支援を基に、「ユニバーサルデザイン」の視点に応じた支援例を作成しました。4つの視点ごとに支援例を挙げています。チェックシートの結果を基にしながら、授業づくりに活用してください。

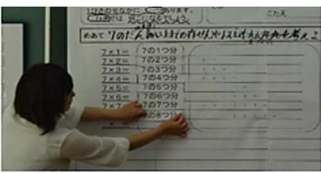
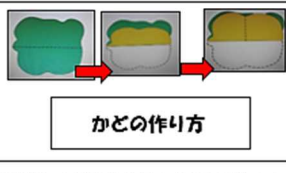


「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じた支援例の見方

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点について

3 説明の工夫

授業では、教師が児童生徒に学習内容等の説明や指示をする場面が多くあります。そのため、教師の話し方の工夫や電子黒板等のICTの活用、黒板の使い方や教材の工夫等をすることが大切です。それにより、教師の説明や指示の内容が分かりやすくなることで、児童生徒は学習内容の理解を深めることができるようになると思います。これらに配慮した支援例を紹介します。

支援例

<p>【小学校】 ワークシートを拡大したものを黒板に掲示する</p>  <p>注目の箇所を分かりやすくするために、ワークシートを拡大したものを掲示する。</p>	<p>【小学校】 視覚的な辞書を提示しながら説明する</p>  <p>かどの作り方</p> <p>画用紙を使った直角の作り方を分かりやすくするために、直角の作り方の手順を電子黒板に掲示する。</p>
<p>【中学校】 画面カメラと電子黒板で発表者のワークシートを提示する</p> 	<p>【中学校】 具伴物を用いて説明する</p> 

その他の支援例

教師の話し方を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に聞こえる声の大きさで話す。 ・話す速さに気を付ける。 ・抑揚を付けて話す。 ・キーワードを基に伝える。 ・説明は簡潔に行う。 ・「いつ」「どこで」「誰が」等を使いながら話す。 ・「1つ目は」「2つ目は」と冒頭に数字を示しながら、内容を整理して話す。 ・「大事なことを言います」「質問は最後に聞きます」と前置きをしてから話す。 ・結論や要点を最初に話し、説明を後から加える。 ・注目を集めるために、指導場面に合わせて教師の立つ場所を変えて話し始める。 ・実物を提示したり、掲示物を指し示したりしてから話す。 ・児童生徒の活動の前後、もしくは活動を止めてから指示や説明をする
黒板の使い方を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の後ろから見える文字の大きさや行間で板書する。 ・板書の様式を決めておく（左から右に書く、めあてやまとめを書く箇所を決めておく等）。 ・キーワードは、赤や黄などチョークの色を変えながら板書する。 ・板書の際、どの授業でもアンダーラインや重要語句を囲む色を決めておく。 ・日付や学習する教科書等のページ数を板書する。 ・学習の流れに沿った板書を残す。 ・児童生徒の様々な意見やその関係性が見えるように板書する。 ・書き間違いやすい漢字は、大きく板書する。 ・文章問題とともに図や挿絵を提示する。 ・図や絵を結ぶ等しながら、語句や数字の関係性を捉えさせる。 ・授業用と掲示用の小黒板を使い分ける。 ・ワークシートと一致した板書にする。
ワークシート等の教材の使い方を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとにワークシートの様式を統一する。 ・穴埋め式のワークシートを準備し、書き込ませる。 ・書き込み箇所に番号を振る。 ・授業でのキーワードをワークシートに挙げておく。 ・話し合う際のテーマをワークシートに掲示しておく。 ・文章の構成を分けたワークシートを準備する。 ・定型文や語句の選択肢を提示する。 ・発音しにくい英単語に片仮名で発音を表記した語句リストを準備する。 ・本時の学習で用いる定型文や定型文に合う例文や単語を提示する。

「ユニバーサルデザイン」のそれぞれの視点と、その捉え方を説明しています。

小・中学校や高等学校で行った授業実践で取り入れた支援の方法や意図を紹介しています。

その他の支援例として、チェックシートの項目にはない支援例を挙げています。チェックシートの結果から、取り入れたい視点に応じた支援を考える際の参考にすることができます。

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点について

1 環境の工夫

教室には様々な学習道具や掲示物等があります。そのため、教師が教室環境を整えたり、学習に関するルールを決めたりすることが大切です。それにより、児童生徒は落ち着いて生活ができ、また、集中して学習に取り組むことができるようになると思います。これらに配慮した支援例を紹介します。

支 援 例

【小学校】 既習事項を教室の横に掲示する



児童が思考する際の手掛かりになるように、これまでに学習した内容や方法を掲示する。

【小学校】 話し合いをするときのルールを決める



司会の進行に沿って話し合うことができるように、進行の仕方を書いた「話し合いの手引き」を準備する。

【中学校】 発表をするときのルールを決める



個人で考える活動の際に、集中して考えることができるように、質問するときは静かに挙手をするというルールを決める。

【中学校】 教室前面の掲示物をカーテンで隠す



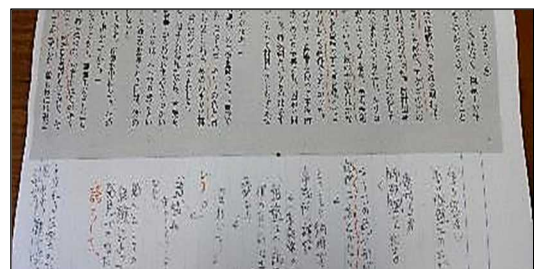
生徒が黒板に集中することができるように、黒板周辺の掲示物を少なくする。また、授業中に必要のない掲示物をカーテンで隠し、視覚情報を少なくする。

【高等学校】 学習用具の準備の仕方を決める



生徒が自主的に次の授業の準備ができるように、授業が始まる前に、次の授業の準備をさせる。

【高等学校】 ノートの使い方のルールを決める



板書を書き写したり学習のポイントに気付いたりすることができるように、ノートの使い方のルールを決める。

<p>教室環境を整える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の上の壁面には、必要な物だけを掲示する。 ・黒板の両サイドの壁面には、時間割等、年間を通して必要な物だけを掲示する。 ・掲示物は教室の後ろや横に貼る。 ・掲示物や掲示物を貼る台紙等は淡い色調を用いる。 ・黒板はきれいに拭き、余分な掲示物やマグネット等がないようにする。 ・授業時間は、教室前面の掲示板やロッカーをカーテンで隠す。 ・教卓や教師用机の上には、必要な物だけを置く。 ・椅子の脚にテニスボール等を付ける。 ・時間割は、教科別に色分けしたり授業内容を想起させるイラストやシンボルを添付したりする。 ・学習道具の準備の仕方を絵や写真等で視覚的に示す。 ・机の中の整理の仕方を絵や写真等で視覚的に示す。 ・引き出しに入れる物、ロッカーに入れる物を決める。 ・ロッカーに入れる学習道具を整理するための箱を準備する。 ・掃除用具入れ等、皆で使う場所の整理整頓の仕方を、絵や写真等で視覚的に示す。 ・提出物用の箱を準備する。 ・教科ごとに色を決めて、掲示する時間割表やファイルの色と合わせる。 ・ワークシートを綴るファイルを準備する。 ・教室の前で発表するときに、マーカーや三角コーン等で立つ位置を示す。
<p>学習に関するルールを決める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に、次の授業の準備をさせる。 ・授業中に机に出しておかなければならない学習道具等を決める。 ・授業がスムーズにスタートできるように、次の授業の準備を休み時間のうちにさせておく。 ・授業中の姿勢を絵や写真等で視覚的に示し、継続的に指導する。 ・発表するときやグループで話し合うとき等の声の大きさを指導する。 ・発表するときは、丁寧な言葉遣いをするように指導する。 ・発表の際の話型を決める。 ・発表の際の手の挙げ方のルールを決める。 ・発表を聞くときのルールを決めて、継続的に指導する。 ・教室では肯定的な表現で発言するように指導する。 ・ワークシート等はファイルに綴じるように言葉掛けをする。

その他の支援例

このような支援も取り入れています



体育で使う道具等は決められた場所に保管する。



場に応じた声の大きさが分かるように、視覚的に示して、掲示する。



話を聞くときの姿勢を視覚的に示して、掲示する。



提出物についての連絡事項は、背面黒板のホワイトボードに、まとめて掲示する。

2 組立ての工夫

学校種や学年、教科等によって、授業の組立て方は異なります。そのため、教師が児童生徒に学習の見通しをもたせる、学級の実態に応じて授業構成や学習形態を工夫する、児童生徒が互いに考えを共有する活動を取り入れる等の工夫が大切です。それにより、児童生徒は授業内容に見通しをもち、主体的に活動に参加することができるようになりますと考えます。これらに配慮した支援例を紹介します。

支援例

【小学校】 タイマーを用いて活動時間を明確にする



児童が、時間の区切りを意識して活動に取り組むことができるように、活動時間を予告しタイマーで知らせる。

【小学校】 身体を使った学習活動を取り入れる



児童が、学習に集中して取り組むことができるように、様々な感覚を使わせる活動を取り入れる。

【中学校】 学習活動の流れを掲示する



生徒が学習の見通しをもち、学習に集中して取り組むことができるように、1時間の活動の流れをホワイトボードに掲示する。

【中学校】 個人や全員で考える活動を取り入れる



注意の持続がしやすくなるように、授業の中で様々な活動を取り入れる。

【高等学校】 導入で前時の学習内容を提示する



学習の見通しをもつことができるように、導入で前時の学習を振り返る。

【高等学校】 ペアやグループで考えを共有する活動を取り入れる

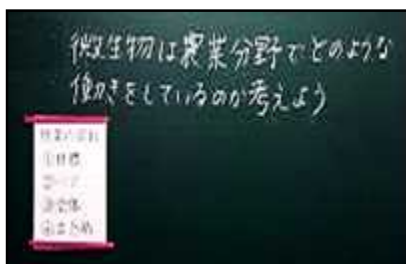


自分の考えを明確にしたり、互いの考えを共有したりできるように、ペアやグループでの話し合いを取り入れる。

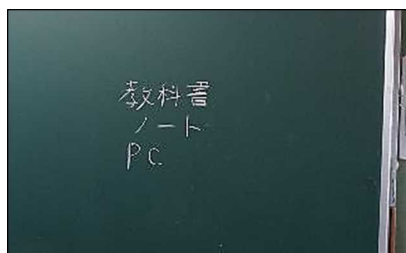
その他の支援例

授業の見通しをもたせる	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始の3分前にタイマーが鳴るように設定する。 ・授業開始前に、次の授業に必要なものを黒板に表示して伝える。 ・導入で、前時の学習内容のポイントを黒板や電子黒板に提示し、児童生徒が学習を振り返ることができるようにする。 ・導入で、本時のめあて(目標)やポイント、学習内容、学習の流れ、活動手順等を視覚的に提示する。 ・児童生徒にとって活動内容が分かりやすくなるように、1単位時間での学習活動の流れを図示したものの横に磁石を貼り、学習活動に応じてそれを動かす。 ・教科に応じた授業のパターン(一定の型)を決める。 ・「導入ー展開ーまとめ」のように、毎時間、一定の流れで授業を進める。 ・1つの課題が終わった後、次にする課題を準備している。 ・課題の手順、作業の終了、約束事、必要な道具等について、文字や絵等で提示する。 ・課題の手順表を作成し、児童生徒が適宜確認したり振り返ったりできるようにする。 ・タイマー等を活用したり、終了時刻を表示したりして、児童生徒にとって活動時間の区切りが分かりやすくなるようにする。 ・まとめで、児童生徒が振り返りカードに記入することで、本時の自分自身の活動への取り組み方について振り返ることができるようにする。 ・まとめで、教師が黒板や電子黒板を用いて、本時の学習のポイントを示しながら振り返る。 ・授業の終わりに、次時の学習内容について伝える。
授業構成や学習形態を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の興味や関心を意識した学習内容を設定する。 ・授業の目標を明確にして、学習内容の中心となる学習活動を設定する。 ・聞く活動、書く活動、読む活動等、様々な学習活動を取り入れる。 ・操作活動や実験等、体験的な学習活動を取り入れる。 ・1つの学習活動を10～15分ごとに短く区切る。 ・授業の中で、様々な感覚(視覚・聴覚・触覚等)を使わせる工夫をする。 ・個人学習、ペアやグループ学習等、様々な学習形態を取り入れる。
考えを共有する活動を取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループによる話し合いを取り入れる。 ・ネームプレートを用いて、児童生徒の考えを黒板に示す活動を取り入れる。 ・児童生徒が、友達との教え合いや答え合わせ等を行うことができる時間を設定する。

このような支援も取り入れています



導入で、学習課題や学習の流れ等を視覚的に提示する。



授業開始前に、次の授業に必要なものを黒板に表示して伝える。



振り返りカードで、本時の自分の話し合い方を振り返る。

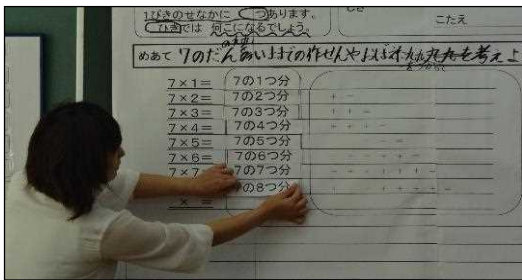
「ユニバーサルデザイン」の4つの視点について

3 説明の工夫

授業では、教師が児童生徒に学習内容等の説明や指示をする場面が多くあります。そのため、教師の話し方の工夫や電子黒板等のICTの利活用、黒板の使い方や教材の工夫等を行うことが大切です。それにより、教師の説明や指示の内容が分かりやすくなることで、児童生徒は学習内容の理解を深めることができるようになりますと考えます。これらに配慮した支援例を紹介します。

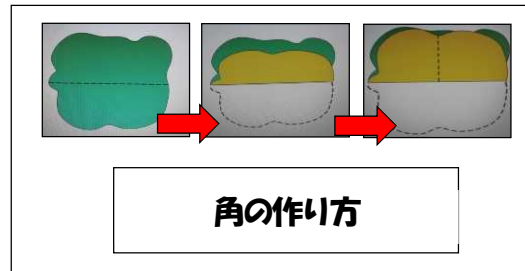
支援例

【小学校】 ワークシートを拡大したものを黒板に提示する



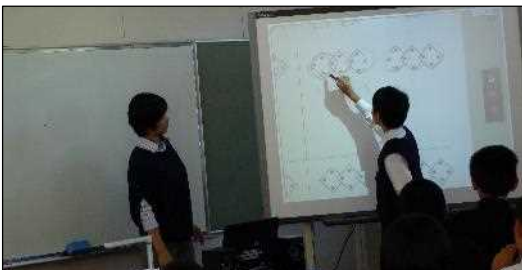
注目する箇所を分かりやすくするために、ワークシートを拡大したものを提示する。

【小学校】 視覚的な情報を提示しながら説明する



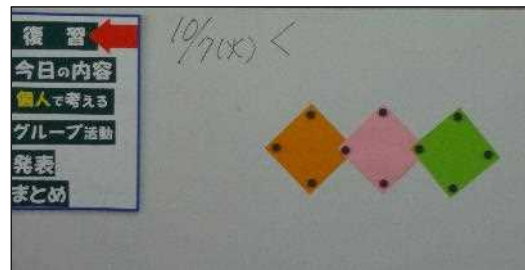
画用紙を使った直角の作り方を分かりやすくするために、直角の作り方の手順を電子黒板に提示する。

【中学校】 書画カメラと電子黒板で発表者のワークシートを提示する



グループで話し合ったことが全体に伝わるように、発表者のワークシートを書画カメラと電子黒板で提示し、タッチペンで書き込ませながら説明させる。

【中学校】 具体物を用いて説明する



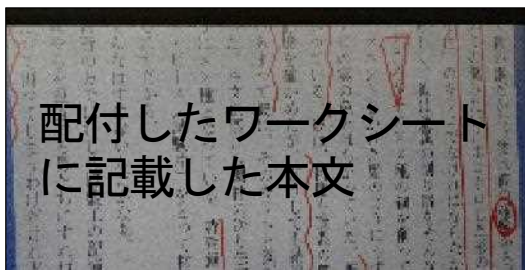
課題の解決方法に見通しをもちやすくするために、口頭だけでなく、折り紙とマグネット等の具体物を用いて説明する。

【高等学校】 具体物を用いて説明する



学習課題を把握させやすくするために、校内で栽培している稲を提示する。

【高等学校】 ワークシートを電子黒板に提示する



要旨に気付きやすくするために、生徒に配付したワークシートを電子黒板に提示する。

その他の支援例

教師の話し方を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・十分に聞こえる声の大きさで話す。 ・話す速さに気を付ける。 ・抑揚を付けて話す。 ・キーワードを基に伝える。 ・説明は端的に行う。 ・「いつ」「どこで」「誰が」等を使いながら話す。 ・「1つ目は」「2つ目は」と冒頭に数字を示しながら、内容を整理して話す。 ・「大事なことを言います」「質問は最後に聞きます」と前置きをしてから話す。 ・結論や要点を最初に話し、説明を後から加える。 ・注目を集めるために、指導場面に合わせて教師の立つ場所を変えて話し始める。 ・実物を提示したり、掲示物を指し示したりしてから話す。 ・児童生徒の活動の前後、もしくは活動を止めてから指示や説明をする。
黒板の使い方を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の後ろから見える文字の大きさや行間で板書する。 ・板書の様式を決めておく(左から右に書く、めあてやまとめを書く箇所を決めておく等)。 ・キーワードは、赤や黄などチョークの色を変えながら板書する。 ・板書の際、どの授業でもアンダーラインや重要語句を囲む色を決めておく。 ・日付や学習する教科書等のページ数を板書する。 ・学習の流れに沿った板書を残す。 ・児童生徒の様々な意見やその関係性が見えるように板書する。 ・書き間違いやすい漢字は、大きく板書する。 ・文章問題とともに図や挿絵を提示する。 ・図や絵を結ぶなどしながら、語句や数字の関係性を捉えさせる。 ・授業用と掲示用の小黒板を使い分ける。 ・ワークシートと一致した板書にする。
ワークシート等の教材の用い方を工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとにワークシートの様式を統一する。 ・穴埋め式のワークシートを準備し、書き込ませる。 ・書き込む箇所に番号を振る。 ・授業でのキーワードをワークシートに挙げておく。 ・話し合う際のテーマをワークシートに提示しておく。 ・文章の構成を分けたワークシートを準備する。 ・定型文や語句の選択肢を提示する。 ・発音しにくい英単語に片仮名で発音を表記した語句リストを準備する。 ・本時の学習で用いる定型文や定型文に合う例文や単語を提示する。 ・フラッシュカードを使って提示する。
電子黒板等のICTを利活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや図、写真を提示する。 ・ワークシートと同じものを提示する。 ・実験等の手順を提示する。 ・要点やキーワードに下線を引いたり枠で囲んだりする。 ・図や絵をマーカーで結ぶなどしながら、語句や数字の関係性を捉えさせる。 ・グラフ等にアニメーションを取り入れ、その推移を視覚的に捉えさせる。 ・定型文や語句の選択肢を提示する。 ・発音しにくい英単語に片仮名で発音を表記した語句リストを準備する。 ・本時の学習で用いる定型文や定型文に合う例文や単語を提示する。

「ユニバーサルデザイン」の4つの視点について

4 個人差への配慮

「環境の工夫」「組立ての工夫」「説明の工夫」の各視点に応じた支援を取り入れるだけでは、学習内容に参加したり授業内容を理解したりすることが難しい児童生徒がいることがあります。そのため、教師が座席配置を工夫したり、ノートに書き写す量を調整したりする等、個に応じた支援を取り入れることが大切だと考えます。これらに配慮した支援例を紹介します。

※この視点は、個の実態に対して行うものであるため、他の視点の支援と共通するものがあります。

支 援 例

【小学校】 児童が興味をもっているものを学習に取り入れる



注意を持続させることが苦手な児童が、意欲をもち続けながら授業に参加することができるように、取組の様子に応じて、児童の好きなシールを貼る。

【小学校】 書く量を調整したワークシートを用意する



書くことが苦手な児童の書く負担を減らすために、授業の要点だけを記入するようにしたワークシートを用意する。

【中学校】 児童生徒の実態や人間関係を踏まえて座席を配置する



周りとの学力に差があり授業への参加や理解が難しい生徒が、学習に取り組みやすくなるように、教師が意図的に座席配置やグループ編成を行う。

【中学校】 絵や図等の視覚的な情報を提示しながら説明する



聞くことが苦手な生徒が、学習内容を理解しやすいように、電子黒板を利用して視覚的な情報を提示し、見るポイントを具体的に伝える。

【高等学校】 電子黒板の画面を学習用PCにも投影する



板書を書き写すことが苦手な生徒が、手元でも電子黒板の画面を見ることができるよう、学習用PCに電子黒板と同じ画面を投影する。

【高等学校】 個に応じた言葉掛けをする



注意を持続することが苦手な生徒が、注意を持続しやすいように、個別に言葉掛けをしたり、本人にとって答えやすい質問をしたりする。

その他の支援例

聞くことが 苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容やポイントが理解できているかを個別に尋ねて確認する。 ・説明の内容をまとめたメモを渡す。
書くことが 苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・作文を書く際は、事前に書く内容について説明しておく。 ・書き写しや、計算をする際の位取りをしやすくするために、マス目のあるノートやワークシートを準備する。 ・自分の考えを表現しやすくなるように、書く文章の内容を示したワークシートを準備する。 ・1枚のプリントに載せる問題数等を減らすことで、書きやすい大きさに記入できるようにする。 ・ノートのマス目の大きさや罫線の幅を選択できるようにする。 ・ワークシートを用いることで、書く量を調整する。 ・ワークシートを拡大し、解答を書き込む枠を広げる。 ・黒板の重要な箇所だけを書き写すようにすることで、書く量を調整する。 ・不器用さを補う文具を準備する（持ちやすくする鉛筆用グリップ、細微な部分が消しやすい消しゴム、針がずれにくいコンパス、目盛りが見やすい物差しなど）。
読むことが 苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・次時に学習する箇所を知らせ、家庭で音読を練習するように伝える。 ・問題文を読み聞かせて、内容を伝えておく。 ・提示する文章の字間や行間を広くする。 ・文字のポイントを大きくしたり、フォントを変えたりする。 ・単語や文節ごとに横線を入れたり、分けて書いたりしたプリントを準備しておく。 ・スリットを開けた厚紙を使ったり、定規や指を当てたりすることで読みやすくする。
話すことが 苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・話す内容をノートやワークシートに事前に書いてから発表できるようにする。 ・書いて伝える等、話して伝える以外の方法で伝えることができるようにする。
見ることが 苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・書き写す見本となるように、板書内容を事前に渡す。 ・見る箇所が分かるように、具体的に伝えたり、印を付けたりする。
注意を 持続するこ と が 苦手	<ul style="list-style-type: none"> ・カーテンや間仕切り等で刺激を遮る。 ・教師の近くや落ち着いた児童生徒の隣にする等、座席の位置を工夫する。 ・活動することや持ってくる物等を書いたメモを渡す。 ・説明や指示をする前に、名前を呼んだり、言葉掛けをしたりして注意を引き付ける。 ・取り組む課題を易しいものから難しいものへと段階を踏めるよう工夫する。
周りとの学力 に差がある	<ul style="list-style-type: none"> ・教師やモデルとなる児童生徒の近くに座席を配置する。 ・作業や課題は一度に達成することが可能になるように、課題の量を調整する。 ・問題や宿題の量を児童生徒の実態に合わせて調整する。 ・活動内容や課題の難易度を児童生徒に合わせて用意して、選択できるようにする。 ・課題が早く終わった児童生徒のために、次の課題を用意しておく。 ・取り組みやすい方法で解決できるようにする（漢字を見て覚えるか書いて覚えるかなど）。 ・ヘルプカードや理解の程度に合わせたヒントカード等を活用する。 ・個の実態に応じた個別の補助教材や教具を活用する。
発達に 偏りがある	<ul style="list-style-type: none"> ・守るべきルールや約束事のいくつかを児童生徒と相談して決める。 ・好ましくない行動に対する教師の対応を決めておく。 ・落ち着いて授業に参加できないときの過ごし方を事前に決めて、本人に伝えておく。 ・本人が興味をもっていることや得意なことを学習内容に取り入れる。 ・活動の手順を自分で確認することができるように、絵や文字で流れを視覚的に示したものを用意する。 ・作業がしやすいように、大きめの机を用意したり、立って作業できる場所を確保したりする。 ・言葉の意味等を調べるときに、電子辞書の使用を認める。 ・ノートに書く代わりに音声の録音やノートのコピー、パソコンを利用する等の方法を認める。

※個人差への配慮は個の実態に対して行うものであるため、他の視点の支援と共通するものがあります。